



「総選挙勝利必ず」と日本共産党四国ブロックのキヤラバンが7日、香川県で始まり、白川よう子衆院四国比例候補は丸亀市のつどいで訴えました。白川氏は、物価高騰なため献金や政党助成金は禁止を」と強調しました。

石田まゆ衆院香川2区候補は「党の経済再生プランで根本から変えていく」と力説。ささい孝志同衆院3区候補は「戦争反対の組合やその運動が弱まっている。労働者の権利を貢いていく」と訴えました。

「総選挙勝利必ず」と日本共産党四国ブロックのキヤラバンが7日、香川県で始まり、白川よう子衆院四国比例候補は丸亀市のつどいで訴えました。白川氏は、物価高騰なため献金や政党助成金は禁止を」と強調しました。

白川氏は「日本は30年も経済が停滞しているのに、岸田政権は社会保障を削り予算を軍事費に回す。給料や年金は物価高騰に追い付いていない。政治の責任で賃上げを」と強調しました。

## 香川から四国キヤラバン開始 白川四国比例候補



◎高松で行動

7日から始まった四国ブロックのキヤラバンで白川よう子四国比例候補は9日、高松市で街頭宣伝し、「自民党政治を終わらせ、国民が希望を持てる命と暮らし、生業を守り抜く政治に変えよう」と訴えました。

白川氏は「日本は30年も経済が停滞しているのに、岸田政権は社会保障を削り予算を軍事費に回す。給料や年金は物価高騰に追い付いていない。政治の責任で賃上げを」と強調しました。

白川氏は「日本は30年も経済が停滞しているのに、岸田政権は社会保障を削り予算を軍事費に回す。給料や年金は物価高騰に追い付いていない。政治の責任で賃上げを」と強調しました。

### お詫びとお知らせ

民主香川第3週（6月16日号）が本来の発行週でしたが、赤旗日曜版が合併号になった関係で発行を見送りました。その代替えで第5週の6月30日に発行しますのでご了承下さい。 民主香川社

維新が強行した法改定で、政策活動費の領収書を10年後に公開するのはおかしい」、「年金が下がり高額でバス路線が廃止され不便だ。社会保障の充実を訴える共産党に期待する」などの声が出ました。

いるのに、自民、公明、維新が強行した法改定で、政策活動費の領収書を10年後に公開するのはおかしい」、「年金が下がり高額でバス路線が廃止され不便だ。社会保障の充実を訴える共産党に期待する」などの声が出ました。

白川パンフと石田リーフ手渡したら「白川よう子と書いて入れたらいいのね」との言葉、慌てて「白川と書いたら無効です。比例代表は日本共産党と政党名で、2区は候補者名で書いてね」と…。鳥のさえずる中、道端懇談に終わりがありました。

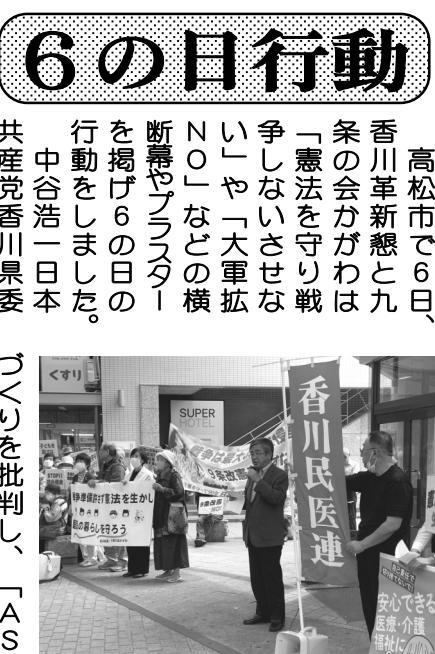


香川民医連内・日本共产党医療後援会の街頭宣伝活動、「チーム火曜日」は22年6月、通算900回です。白川容子さんの県議選立候補機会開始しました。毎週火曜日に、栗林町交差点で行っています。日本共産党のぼり旗とプラスターで、わかりやすい宣伝に心がけ、元気に大きな声で挨拶、医療・介護の問題を中心に訴えています。

## 医療後援会が朝宣伝900回

香川民医連内・日本共产党医療後援会の街頭宣伝活動、「チーム火曜日」は22年6月、通算900回です。白川容子さんの県議選立候補機会開始しました。毎週火曜日に、栗林町交差点で行っています。日本共産党のぼり旗とプラスターで、わかりやすい宣伝に心がけ、元気に大きな声で挨拶、医療・介護の問題を中心に訴えています。

香川民医連内・日本共产党医療後援会の街頭宣伝活動、「チーム火曜日」は22年6月、通算900回です。白川容子さんの県議選立候補機会開始しました。毎週火曜日に、栗林町交差点で行っています。日本共産党のぼり旗とプラスターで、わかりやすい宣伝に心がけ、元気に大きな声で挨拶、医療・介護の問題を中心に訴えています。



近代日本文学には、朝鮮、台湾、満州などの植民地支配をリアルに描いた名作が見当たらぬ。この大きな弱点を埋めるのが、黒島伝治の「武装せる市街」である。ドナルド・キーンは、この小説をプロレタリア文学の最高傑作である、と次のように述べている。

（前略）黒島の反戦文学の傑作は「武装せる市街」（一九三〇年）である。ただし、この小説は発行と同時に当局に押収され、一九四五年（昭和二十年）の敗戦まで再び陽の目を見ることがなかった。

（中略）それ以前も以後も葉山嘉樹の『海に生くる人々』や小林多喜二の『蟹工船』ほど世の注目を惹いていない。しかし私は、この作品こそ、日本プロレタリア文学運動の中から生まれたもつともみごとな小説として、高く評価さ

黒島は一九二九年十月から十一月にかけて、「濟南事件」のあつた濟南、天津、奉天を歩き、戦火の跡を調査する。「濟南事件」（一九二八年五月）とは、蔣介石の国民革命軍と、日本軍との戦闘である。この取材旅行の成

てからは静かな生活を送り、一九四三年十月に自宅で没した。黒島伝治はプロレタリア文学の傑出した作家であったが、終生ついに高い評価を受けることなく、四十五歳の短い生涯を閉じたのである。一九六五年、ふるさとの内海町苗羽芦ノ浦の丘に黒島伝治文学碑が建立される。

二〇〇一年、『定本 黒島傳治全集』全五巻が刊行された。



汗ばむような6月の一日、宇多津町の街角つどいに参加しました。事前に地域に各戸お知らせをして、当日は事前にハンドマイクで触れ回り、何人もの人が参加してくれました。



黒島伝治の文学碑めぐり 文・写真 深沢 雨根  
（一八九八～一九四三）

（『日本文学の歴史』第十二卷三五頁）

黒島は、小豆郡苗羽村（現・小豆島町）の農家に生まれた。十九歳のとき、文学の志を抱いて上京するが、一九二一年、シベリア出兵で東部シベリアに送られた。肺を病んでいた黒島は、酷寒の中で病気を悪化させ、翌年には静かな生活を送り、一九四三年十月に自宅で没した。これは一九三一年『戦旗』一月号に掲載した「入営する青年は何をすべきか」が新聞紙法反により禁固二か月、罰金二十円、執行猶予四年の判決を受けた。これは一九三一年『戦旗』一月号に掲載した「入営する青年は何をすべきか」が新聞紙法に違反したためである。帰郷し

（全日本無産者芸術連盟）に加わる。しかし、一九三三年早春に喀血、療養のため帰郷、傷病軍人の年金で暮らす身となつた。一九三四年七月、新聞紙法違反により禁固二か月、罰金二十円、執行猶予四年の判決を受けた。これは一九三一年『戦旗』一月号に掲載した「入営する青年は何をすべきか」が新聞紙法に違反したためである。帰郷し

日本企業による中国人搾取と、日本軍による武力支配が描かれている。中国における日本帝国主義の蛮行を黒島伝治はどうしても自分の手で書きたかったのだ。

## 6の日行動

高松市で6日、香川革新懇と九条の会ががわは憲法を守り戦争しないさせない「大軍拡NO」などの横断幕やプラスターを掲げ6の日の日の行動をしました。



黒島伝治の「武装せる市街」はプロレタリア文学の最高傑作「武装せる市街」である。ドナルド・キーンは、この小説をプロレタリア文学の最高傑作である、と次のように述べている。

（17）